

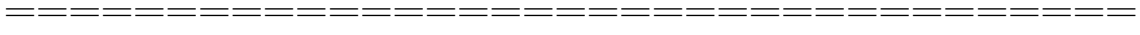


電子情報通信学会 ヒューマンコミュニケーショングループ (HCG)
ニューズレター (2019年度 No.2)
<http://www.hcg-ieice.org/archives/newsletters/>



～ 目次 ～

- ◆FIT2019 (第18回情報科学フォーラム) 開催のご報告
- ◆HCG シンポジウム 2019 開催のご案内
- ◆2020年総合大会投稿のご案内
- ◆研究会活動紹介 (HCS 研究会)
- ◆研究会活動紹介 (VNV 研究会)



FIT2019 (第18回情報科学技術フォーラム) 開催のご報告

企画幹事
蔵田武志 (産総研)

第18回情報科学技術フォーラムFIT2019が、9月3日(火)から5日(木)(金)まで、岡山大学の津島キャンパスにおいて開催されました。

本フォーラムは、IPJS全国大会とISSソサイエティ大会との流れを汲むものですが、従来の大会の形式にとらわれずに新しい発表形式を導入し、タイムリーな情報発信、活気ある議論・討論、多彩な企画、他分野研究者との交流などを実現することで、2002年から毎年継続して開催しております。

今年度は、「トップコンファレンスセッション」が新設されました。各分野でのトップレベルの国際会議・学術雑誌に最近数年以内に採録された論文の著者にその内容を紹介して頂く特別なセッションで、3日間7セッション計37件の発表をしていただきました。FIT期間内の研究会開催にも取り組みました。

「IT情報系キャリア研究セッション」では、企業10社と学生とが直接対話する機会を提供することができました。託児所開設も試行されました。

情報技術分野における顕著な業績に対して贈られるFIT2019船井業績賞を受賞された後藤 真孝氏 (国立研究開発法人 産業技術総合研究所 首席研究員) の受賞記念講演も行われました。

一般発表のセッション毎に座長の裁量で優秀な発表を1件その場で選び贈呈するFIT奨励賞の受賞者が73名選ばれました。

次回は、2020年9月1日(火)～3日(木)に北海道大学の札幌キャンパスで開催予定となっています。



HCG シンポジウム 2019 開催のご案内

企画幹事
青木良輔 (NTT 研)

毎年 12 月の恒例となりました。電子情報通信学会ヒューマンコミュニケーショングループ (HCG) が主催する HCG シンポジウム 2019 の開催のご案内です。

会場：広島県情報プラザ (広島市中区) :
<https://www.hiwave.or.jp/purpose1/plaza/>

会期：2019 年 12 月 11 日 (水) ~ 2019 年 12 月 13 日 (金)
事前参加×切 (懇親会事前参加×切も含む)：2019 年 11 月 11 日 (月)

参加登録 HP :
<https://www.hcg-ieice.org/hcg-symposium/2019/registration#top>

事前参加と当日では参加費、懇親会費ともに料金が異なりますので、ご注意ください。

事前参加登録をした方は×切期日内に忘れずに入金もお願いします。

今年度は、100 件 (口頭発表：73 件、インタラクティブ発表のみ：27 件) の発表申し込みがありました。そして、72 件の口頭発表者がインタラクティブ発表する予定です。加えて、ヒューマンコミュニケーションに関わる様々な分野の専門家が集まるのが本シンポジウムの特徴です。これからの時代の新しい流れを生み出す、活発な議論ができる環境ですので、ぜひご参加ください。

一般セッションに加え、下記のセッションを予定しております (HCG シンポジウム 2019HP から抜粋)。

●招待講演：1 件 (12 月 12 日)

「記憶の解凍」：資料の“フロー”化とコミュニケーションの創発による記憶の継承

講演者：渡邊英徳 (東京大学大学院情報学環・学際情報学府)

概要：現代の社会においては、“ストック”されたデータそのものに加えて、適切な情報デザインによって“フロー”を生成し、コミュニケーションを創発することに価値が見いだされる。従って、戦災・災害など、過去のできごとの「実相」を未来に伝えていくためには、デジタルアーカイブ/社会において“ストック”されている資料を“フロー”化し、コミュニケーションを創発することで情報の価値を高め、継承へのモチベーションを生み出していくことが望まれる。本講演では、社会に“ストック”されていた資料を“フロー”化し、記憶を未来に継承する営み＝「記憶の解凍」について解説する。

●チュートリアル講演：1 件 (12 月 11 日)

「生理指標による心の測定は可能か？」

講演者：中尾敬 (広島大学大学院教育学研究科)

概要：ヒトの感性といった心的側面を測定し、モノやサービスに反映する。そのような取り組みでまず直面する問題の一つが心的側面の測定方法であろう。主観評定では心許ないため、心的側面との関連が数多く報告されている脳活動や末梢神経系の活動から心的側面を測定しようとするところもあるだろう。しかし当然のことながら、特定の生理指標が特定の心的過程と一対一対応しているとは限らないため、生理指標から心的側面について言及する際には注意すべき点が存在する。本講演では、心理学の研究において用いられることの多い生理指標を概説した上で、それらの生理指標を心の尺度として利用しようとする際の注意点について紹介する。

●特別セッション3件

・「デザイン思考で研究をメンタリングしてみる！」(12月12日)

技術提案の研究発表を数件ピックアップし、共感、問題定義、創造、試作、テストというデザイン思考の一連のステップから成るフレームワークを用いてメンタリングを行う。メンタリングにおける一連の分析の様子を聴衆と共有しながら、技術の洗練だけでなく、ユーザに届ける価値を具体化し、今後の研究のためのアクションプランをアウトプットすることを通じ、工学研究者がデザインの意識を高めることを狙う。

・「手話認識・翻訳の現状と今後」(12月12日)

音声言語間の自動翻訳はドメインを絞ることにより実用的な商用システムが販売される一方で、手話言語と音声言語間の自動翻訳はまだ緒についたばかりである。しかし、最近のAIによる機械翻訳技術、画像認識技術の発展は手話言語と音声言語間の変換の可能性を期待させる。本特別セッションでは、各機関が行っている手話翻訳・認識技術の報告を通して、現状把握をし、今後の課題などについて議論する。

・特別セッション(12月11日) 障がいのあるお子さんの算数指導

算数が苦手なお子さんや、学習に困難があり算数で困っているお子さんのために、実際に生活していくための「お金と買い物」について、その分野で第一人者である「お金で学ぶさんすう[®]」理事長の住山志津枝氏をお呼びして講演していただく。講演では、電子レンジで簡単な料理を子どもに経験させる上で、食材の買い出し(お買い物)から計量や食材カットなどの作業を通して数量を意識することで算数概念を身に着ける取り組みを紹介していただく。

●特集テーマセッション:1件(12月11日)

特集テーマ「ソーシャル・インタラクション」

人・人および人・機械のインタラクションおよび社会的インタラクションの可視化・解析・モデリングおよびそれらに関する応用技術(介入・促進・インタフェース)についての発表を募集します。特にJST CREST「ソーシャルイメージング」、「優しい介護の計算的・脳科学的解明」プロジェクトをはじめ共生インタラクション領域の内容に関連する講演を、プロジェクト・領域内外から募集します。

=====

2020年総合大会投稿のご案内

企画幹事
蔵田武志(産総研)

電子情報通信学会では、例年、春に総合大会、秋にソサイエティ大会を開催しています。今回は、ヒューマンコミュニケーショングループ(HCG)を含む4ソサイエティ1グループが一堂に会して、以下の要領で総合大会を開催いたします。異なる分野の研究動向の効率的な調査、参加者との交流等にもご活用ください。皆様のご講演申込み、ご参加を心よりお待ちしております。

会期:2020年3月17日(火)~20日(金)

会場:広島大学 東広島キャンパス(東広島市)

講演申込期間:2019年11月1日~2020年1月8日(水)17:00(厳守)

研究会活動紹介（HCS 研究会）

HCS 副運営委員長
井上智雄（筑波大）

ヒューマンコミュニケーション基礎研究専門委員会（HCS）は、人間のコミュニケーションに関わる基礎的な研究を発表し、研究交流する場を提供しています。研究会の名称、それと本研究会が電子情報通信学会にあるということからは、人間のコミュニケーションの特性を理解し、それを支援・拡張するための情報通信に関わる研究や、情報通信環境における人間のコミュニケーションの研究などが想起されるころでしょう。もちろんこれらは主な研究対象なのですが、人間のコミュニケーションという、我々にとって極めて普遍的なことからを中心とするため、実に幅広い研究領域が関わり、そして多様な人々が交流しています。

具体的には、情報工学やロボット工学、心理学や行動科学、言語学、経営学をはじめ、教育学、医療科学などの領域から、基礎研究者や実務家、学生の参加を頂いています。コミュニケーションに関心を持つ研究者はあらゆる領域に存在しており、それゆえに研究活動の場も分散しがちです。HCS はそういった人々が共通の関心によって参集し、個々の課題を幅広く共有し、多様な観点から検討する場になっています。

今年度はこれまで、2019 年 5 月に沖縄で「コミュニケーション支援」をテーマに HIP 研究会、ヒューマンインタフェース学会 SIGCE と合同、8 月に大阪で「社会的信号処理のための学際研究」に関して VNV 研究会と合同、10 月には東京で「コミュニケーションと食」に関して CEA 研究会と合同で研究会を開催しました。いずれも盛況となり、関係のみなさまに感謝いたします。

このあと 2020 年 1 月には、大分で「コミュニケーションの心理とライフステージ」をテーマに日本心理学会幼児言語発達研究会および社会心理学会と合同で開催します（ちなみに発表申込はまだ受け付けていますので、お申し込み歓迎です）。また、3 月には HAI シンポジウムとの連続日程で「スポーツとコミュニケーション」をテーマとした開催を予定しています。

このように HCS 研究会では、HCG の各研究会と合同で開催している HCG シンポジウムの他にも、関連学会・研究会との合同開催を積極的に行っています。これが裾野の広い研究領域と参加者に資するものであれば幸いです。この考えをさらに進めて、最近「子連れ参加推奨」の試みも開始しました。育児と仕事の両立を支援しようということで、多少なりともさらに研究会に参加しやすくなればと考えています。

コミュニケーション研究に関心をお持ちの皆様には、ぜひ HCS 研究会に一度参加・体験されてはいかがでしょうか。きっとより興味を持っていただけるのではないかと期待しています。

研究会 WEB サイト

<http://www.ieice.org/~hcs/wiki/>

HCS2020 年 1 月研究会

日時：2020 年 1 月 25 日（土）、26 日（日）

場所：J:COM ホルトホール大分（大分市）

HCS2020 年 3 月研究会

日時：2020 年 3 月 4 日(水)、5 日(木)

場所：専修大学生田校舎（川崎市）

研究会活動紹介（VNV 研究会）

VNV 運営委員長
大塚和弘（NTT 研）

ヴァーバル・ノンヴァーバル・コミュニケーション（VNV）研究会は、ヒューマンコミュニケーショングループ傘下の第 3 種研究会として、人間同士のコミュニケーションを支える言語（ヴァーバル）情報と非言語（ノンヴァーバル）情報の役割に焦点を当て、両者の効果的な統合により人間とコンピュータ間のコミュニケーションを円滑にする技術と、コミュニケーション・モデルの構築を目指して、活動をしています。2005 年 10 月の設立以来、これまで 66 回の研究会、並びに、13 回の年次大会を開催してきました。

VNV 研究会は、文理融合的な性格が特徴であり、運営委員、研究会参加者ともおおよそ理系・文系が半々の構成となっています。また、拙速な工学的技術開発よりもむしろ、＜コミュニケーションにおける言語情報と非言語情報の役割の解明＞という問題意識の共有と、参加者間の有機的な相互作用と新しいアイデアの創発を促進していく点が本研究会の特色です。これまで情報学、認知科学、心理学、言語学、社会学、人類学など様々な分野で活躍する方々に参加頂いております。

通常、年間 4～5 回程度の定例研究会、及び、毎年 3 月に年次大会を開催しています。定例研究会は、毎回 1（～2）名の話題提供者を指名し、通常 4 時間程度と十分な時間をとり、話題提供者と参加者間にて濃密な議論を行っています。また、年次大会は、都度設定するテーマに沿った数件の話題提供や外部講師による招待講演、パネルディスカッション、インタラクティブセッションなど柔軟に構成され、定例研究会より規模を拡大して行われます。

さらに例年、8 月の研究会を HCS 研究会と合同で行っており、今年は、近年注目を集めている「社会的信号処理」をテーマとして、活発な発表と質疑が交わされました。また、来年 2 月には新しい試みとして、情報システムソサエティの NLC（言語理解とコミュニケーション）研究会との合同研究会を企画しており、更なるコミュニティの拡大を目指しています。

これら研究会の開催案内は、VNV のホームページ（<http://www.ieice.org/~vnv/index.php>）や VNV メーリングリストを通じて随時行っております。ご興味のある方は是非一度、VNV のホームページをご覧ください。

ヒューマンコミュニケーショングループ研究会・関連行事について、詳しくは HCG ホームページ <http://www.hcg-ieice.org/>をご覧ください。

電子情報通信学会 ヒューマンコミュニケーショングループ
Copyright (c) 2019 IEICE, All Rights Reserved.

☆e-mailによる情報配信を必要としない方は、その旨 henkou@ieice.org まで
会員番号、氏名をご連絡ください。処理に1ヶ月程度かかりますので、入れ
違いに、再度情報配信された場合は、ご容赦ください。

(ご連絡いただいた場合は本会、登録ソサイエティ、グループ、支部、からの
全ての情報配信が止まりますので、情報配信を再度希望される時も、その旨、
henkou@ieice.org までご連絡下さい。)

ieice-ieice-ieice-ieice-ieice-ieice-ieice-ieice

(社) 電子情報通信学会 サービス事業部

TEL:03-3433-6691 FAX:03-3433-6659